

コレクション 2

2025 年 11 月 1 日 (土) - 2026 年 2 月 15 日 (日)

Collection 1 **Collection 2** Collection 3

November 1, 2025–February 15, 2026 | The National Museum of Art, Osaka

123

コレクション1 コレクション2 コレクション3
2025年11月1日^土–2026年2月15日^日

開館時間 | 10:00–17:00、金曜は20:00まで ※入場は開館の30分前まで
 休館日 | 月曜日（ただし11月24日、1月12日は閉館）、11月4日、1月25日、1月13日、年末年始（12月28日–1月5日）
 観覧料 | 一般430円（200円） 大学生130円（70円） ※（ ）内は20名以上の団体料金
 夜間観覧料（別途増徴）金曜（150–200円） 一般500円 大学生700円
 ※高校生以下 13歳未満（40歳以上）無料（要予約） ※心身に支障のいある方とその付添者1名は無料（要予約）
 ※各展示の解説資料の印刷版（ポスター・パネル）は別途購入に際し100円1冊
 無料観覧日（11月1日（土）、11月2日（日曜）、11月10日（土）、11月11日（日）、11月12日（日）、11月13日（土）、11月14日（日）、11月15日（日））

企画：国立国際美術館 協賛：公益財団法人デザイン・工業振興機構（振興財団）（企画協力：京瓷工業（株）京セラ株式会社）
 お問い合わせ：TEL+81-6-6427-4800（日） | www.nmao.go.jp/
 〒530-0005 大阪府北区中之島2-2-55（4-2-55 Nakanishima, Kita-ku, Osaka 530-0005）

 国立国際美術館
 THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

コレクション 2 は、特集展示「21 世紀の想像力」と通年展示「コレクション・ハイライト」の二部構成でお届けします。

今世紀も早 4 分の 1 が経過しようとしています。激動の 20 世紀が終わろうとしていた頃、果たして来るべき新世紀の美術がどのような展開を見せるのか、予測しえた者がどれほどいたでしょうか。それは、ちょうど 21 世紀の幕開けがまったく予期せぬかたちで世界情勢を激変させてしまったのと同様に、人間の価値観や世界観もまた思わぬ変更を余儀なくされたからです。そして今、われわれはこの時代に生まれた作品の数々を目の当たりにすることができるようになりました。この 25 年間の美術を振り返ることは、すなわち人類の新しい千年期の第一歩を確認する作業と言い換えてもいいでしょう。美術の中に世界を、また世界の姿を美術の中に見出すことによって、われわれの今いる所とわれわれが向かう未来という地平に思いを馳せます。その機会として本展を企画するものです。

通年展示「コレクション・ハイライト」では、国立国際美術館を代表する所蔵作品ならびに新収蔵作品をご紹介します。古くはポール・セザンヌやマックス・エルンストラ、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての実践にまで遡られる当館コレクションを通して、近現代の美術の諸相が浮かび上がってくるでしょう。近年収蔵したヨーゼフ・ボイスや村上隆、またモーリーン・ギャレスやマリア・ファアラなどの作品を、1 年間通してご覧いただける機会となります。

本展の見どころ

◎近年の収蔵作品を多数展示

コレクション 1 に引き続き、特集展示、通年展示のいずれにおいても、近年新たに収蔵した作品を多数紹介します。特集展示では、ツァオ・フェイ《マトリョーシカ・バース》（2022/23 年）、今井麗《MUTINY》（2023 年）、今井俊介《untitled》（2022 年）、鬼頭健吾《cosmic dust red(Frank Lloyd Wright)》（2011 年）、藤原康博《迷宮～記憶の稜線を歩く～》（2021 年）などが、今回、初お披露目となります。

◎2000 年以降の現代美術を通覧

21 世紀に入ってから 25 年間に制作された国内外の現代美術作品を、幅広いジャンルにわたって紹介します。現代を生きる作家たちが、この時代をどう捉え、どのように表現してきたか。その歩みを振り返ります。

章構成

特集展示「21 世紀の想像力」

1. 変貌する世界のイメージ

人間が確固とした生の基盤を失ってしまった現代。われわれが目にする世界もわれわれ自身の姿も、かつて見知ったものではなくなってしまいました。この章では、そんな変わりゆく世界像を海外の作家の作品を通して見つめます。ワイヤーメッシュを用いたリチャード・タトルの作品や、エルヴィン・ヴルムの衣服を着せた彫刻など、従来の美術の概念を逸脱した作品群が展示されます。

出品作家：アントン・ヘニング、ヴァルダ・カイヴァーノ、ヴィック・ムニーズ、エルヴィン・ヴルム、オスカー・トゥアゾン、シュテファン・バルケンホール、ジョージ・オズボルト、スン・ユエン&ボン・ユー、ツァオ・フェイ、マルレーネ・デュマス、ミリアム・カーン、リチャード・オードリッチ、リチャード・タトル

2. ありきたりな日常の裏側

20 世紀を覆ってきた大きな物語が終わりを遂げ、人間は一人ひとりが個別の存在として世界の中へと投げ出されていきました。そこでわれわれはどのような景色を見出したのでしょうか。伊庭靖子が描くコーヒーカップ。身近な玩具で溢れた今井麗の絵など、日常の小さな気づきの中に新しい時代の兆候を感じてみましょう。

出品作家：伊庭靖子、今井麗、小川信治、小林孝亘、須田悦弘、高柳恵里、田中功起、長谷川繁、藤原康博、正木隆、森千裕、Mr.

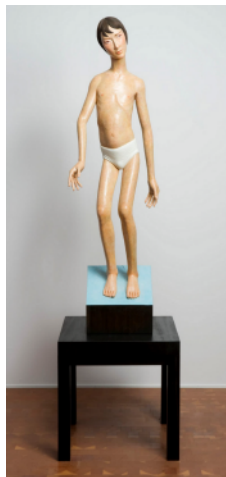
3. プラトーの彼方へ

新しい成長段階に入った人類が次に迎える局面は、果たしてどんな様相を呈していることでしょうか。われわれの眼前に広がる高原(プラトー)の彼方を目指して、作家たちは果敢な第一歩を踏み出しました。今井俊介や横山奈美、中山玲佳ら、新しい世代の作家たちの作品を通して検証していきます。

出品作家：今井俊介、小沢さかえ、鬼頭健吾、杉戸洋、棚田康司、津上みゆき、中山玲佳、丸山直文、山本桂輔、横山奈美



ジョージェ・オズボルト
《お目にかかれて嬉しいです》
2009 年 国立国際美術館蔵
©Djordje Ozbolt
Courtesy of TARO NASU



棚田康司《入道雲の少年》2007 年
国立国際美術館蔵 撮影：福永一夫
©TANADA Koji, Courtesy of
Mizuma Art Gallery



津上みゆき
《View - at 11:15 am., 30 Mar., 06-09》
2009 年 国立国際美術館蔵
©Miyuki Tsugami



長谷川繁 2006 年 国立国際美術館蔵
©HASEGAWA Shigeru



モーリーン・ギャレス《レイト・オーガスト》
2024 年 国立国際美術館蔵
Photo: KEI OKANO
Courtesy of the artist and MISAKO & ROSEN



マリア・ファアラ《テラスのある部屋》
2021 年 国立国際美術館蔵
©Maria Farrar
Courtesy of the artist and Ota Fine Arts

出品作家 ※変更となる場合があります

特集展示「21 世紀の想像力」

アントン・ヘニング、ヴァルダ・カイヴァーノ、ヴィック・ムニース、エルヴィン・ヴルム、オスカー・トゥアゾン、シュテファン・バルケンホール、ジョージ・オズボルト、スン・ユエン&ポン・ユー、ツァオ・フェイ、マルレーネ・デュマス、ミリアム・カーン、リチャード・オードリッチ、リチャード・タトル、伊庭靖子、今井麗、小川信治、小林孝亘、須田悦弘、高柳恵里、田中功起、長谷川繁、藤原康博、正木隆、森千裕、Mr.、今井俊介、小沢さかえ、鬼頭健吾、杉戸洋、棚田康司、津上みゆき、中山玲佳、丸山直文、山本桂輔、横山奈美

通年展示「コレクション・ハイライト」

ジャン（ハンス）・アルプ、アンディ・ウォーホル、エミリー・カーメ・ウングワレー、マックス・エルンスト、オノ・ヨーコ、河原温、モーリーン・ギャレス、ジョセフ・コーネル、ポール・セザンヌ、リュック・タイマンズ、ニコラ・ド・スタール、ソピアップ・ピッチ、マリア・ファラ、ヨーゼフ・ボイス、キム・ボム、ミハエル・ボレマンズ、アグネス・マーチン、ジョアン・ミッチェル、村上隆、ヤノベケンジ、ロレッタ・ラックス、シェリー・レヴィーン

会 期 2025 年 11 月 1 日（土）-2026 年 2 月 15 日（日）

会 場 国立国際美術館 地下 2 階展示室（〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55）

開館時間 10：00 - 17：00、金曜は 20：00 まで ※入場は閉館の 30 分前まで
※2025 年 11 月以降、夜間開館は金曜日のみとなります

休 館 日 月曜日（ただし 11 月 3 日、11 月 24 日、1 月 12 日は開館）、11 月 4 日、11 月 25 日、1 月 13 日、
年末年始（12 月 28 日 - 1 月 5 日）

主 催 国立国際美術館

協 賛 公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団

企画担当 安来正博（国立国際美術館 研究員）

観 覧 料 一般 430 円（220 円）、大学生 130 円（70 円）

（ ）内は 20 名以上の団体料金

高校生以下・18 歳未満・65 歳以上無料（要証明）

心身に障がいのある方とその付添者 1 名無料（要証明）

夜間割引料金（対象時間：金曜の 17：00 - 20：00）一般：250 円 大学生：70 円

本展は特別展「プラカードのために」（会期：11 月 1 日～2 月 15 日）の観覧券でご観覧いただけます。

無料観覧日 11 月 1 日（土）、11 月 3 日（月・祝）、11 月 15 日（土）、11 月 16 日（日）、12 月 6 日（土）、
1 月 10 日（土）、2 月 7 日（土）

関連イベント

ギャラリー・トーク等開催予定。詳細は決まり次第、当館ウェブサイト等でお知らせします。

一般のお客様からのお問い合わせ先

国立国際美術館 TEL: 06-6447-4680（代表） URL <https://www.nmao.go.jp/>

PRESS RELEASE

コレクション 2

2025 年 11 月 1 日（土）-2026 年 2 月 15 日（日）

交通アクセス

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」（2 番出口）から南西へ徒歩約 5 分、Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋駅」（3 番出口）から西へ徒歩約 10 分、J R「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約 20 分、J R 大阪環状線「福島駅」から南へ徒歩約 15 分、J R 東西線「新福島駅」（2 番出口）、阪神電車「福島駅」（3 番出口）から南へ徒歩約 10 分、Osaka Metro 御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」（7 番出口）から西へ徒歩約 15 分

大阪シティバス「大阪駅前」から、53 号・75 号系統で、「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約 3 分（お帰りの JR 大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります）

※当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。

※心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

広報画像ご使用にあたってのお願い

本展の広報を目的とした場合に限り、ご使用いただけます。「広報画像申込書」にて申請していただきますようお願いいたします。

「広報画像申込書」は、国立国際美術館のホームページからダウンロードしていただけます。

国立国際美術館「プレスの方へ」 URL <https://www.nmao.go.jp/press/>

画像の使用にあたって、次の点をお守りいただきますよう、お願いいたします。

- ・画像と一緒に送るキャプション及びクレジットを明記してください。
- ・画像のトリミングや、画像に文字を重ねての使用はできません。
- ・インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
- ・会期・会場・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で広報担当までメールまたは FAX にてお送りください。
- ・掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛にお送りください。
- ・インターネットに掲載した場合は、URL をお知らせください。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。使用後は画像データを破棄してください。

広報に関するお問い合わせ先

国立国際美術館 広報担当 太田道子

E-mail: kouhou@nmao.go.jp TEL: 06-6447-4671(直通) FAX: 06-6447-4699